

平成 29 年 9 月行事 川中邸屋敷林保全活動 参画研修〔報告〕

日 時 平成 29 年 9 月 2 日 (土) 9 : 1 0 ~ 1 2 : 5 0

会 場 川中邸 (東大阪市今米 1 - 4 - 38)

経 過

9 : 15 スタッフ集合

9 : 20 屋敷林内マダケ若芽刈 : 剪定鋏、ノコガマにより竹林周辺に点在するマダケの若芽刈取り・ノコギリによる地下茎切断作業及び集草作業

9 : 45 トウチクなどに絡まるツル刈取作業 : 剪定鋏、ノコガマによりツルを切断し、上部まで伸びたツルを回収・結束作業

10 : 15 川中邸の歴史的経過と屋敷林保全の取り組み(川中さん)

10 : 20 屋敷林内植物・環境調査、今後の保全報告(飛田さん・元枚岡ネイチャークラブ)

前回'09 年に続く第 4 回目の植物調査の結果、

- ①マダケ 756 本②トウチク 560 本③アラカシ 656 本④イヌマキ 345 本⑤マンリョウ 278 本⑥ネズミモチ 208 本
⑦アオキ 186 本⑧ナワシログミ 121 本⑨ウバメガシ 111 本⑩ヤブニッケイ 97 本、以下 4,429 本(極小木 40%) 140 種を確認。

都市公園や山地、海岸地に見られるものや園芸種などを含む樹種数は市内神社・公園などに比べ格段の多数量。

また、屋敷林の緑陰効果測定として、隣接今米公園裸地上との午後 2 時における温度差調査の結果、

- ①ヤブニッケイ下 -6.0℃②ビワ下 : -5.5℃③④アンズ・アラカシ下 : -5.0℃⑤マダケ中 : -4.0℃⑥ケヤキ下 : -3.5℃と持続効果の短い「水まき」に比べ、持続性のある日陰効果が認められた。

今後の屋敷林管理として、

- ①邸内落ち葉を回収せず存置し、通路のみ清掃
②西側民家からの落ち葉苦情対応として、屋敷林が持つ地域的・文化的な資産評価や環境影響評価などを観点とした具体的な資料提供や提示により、川中邸保全意識づくりを図る
③陰樹で極小木を圧迫するアオキ・シュロの極小木の間引き、アラカシ極小木の間引き、元気のない成木の伐採

11 : 15 屋敷林観察 : 三木さん(元枚岡ネイチャークラブ)案内 :

ヤブニッケイの葉を香る

ヒラギ若木鋸葉・鋸葉が消えた老木

ハラン密生 : 緑が濃く、よく成長しているため寿司屋刈取

ノシラン : 日陰で多く育ち、白花開花

ヤブラン : 邸内で 1 株生育

エノキ : 2 本が幹部で合体・分離



イスノキ：数枚の葉に虫こぶ

ムベ：果実はまだ緑色

トウチク：節と節の間が 60～80 cm と日本の竹では最長
ほか



12:20 川中邸東側7階建美杜里ハイム屋上より屋敷林、生駒山観

察：川中さん案内

12:50 終了

振り返り

住之江の加賀屋新田開所は日本庭園として樹木が剪定整備されていたので、大きな違いを感じた。

外から眺めと異なり屋敷内からは多くの種類の植物を観ることができた。

旧布施市に住んでいたが、旧河内市にある川中邸の存在を知らず、初めての訪問であるが、樹種も多く保全されている。やぶ蚊が多かった。

周囲に田んぼ等がないのでカエルやトンボもおらず、やぶ蚊が多い。白花のミズヒキが見たかった。

3月の六満寺竹刈りが廃止になったので、当地の保全活動に参加したい。

昨年も参加したが、樹木が大きくなりすぎ林床に光が届かず、草花が少ないため、草原の箇所が必要と思われる。

木々が鬱蒼として草花が少なく寂しい。保全活動を継続参加していきたい。

配布資料①樹木区割図と気温②区域別樹種別内訳表③樹木抜粋④屋敷林気温測定記録⑤調査結果概要と今後

初参加者へ配布資料①平成28年「川中邸屋敷林保全活動」参画研修報告書②大和川関連年譜

文責 石田壽平

町中に残る屋敷林川中邸:次世代にも残しておきたい貴重な自然です。都会のオアシスのよう。また、この屋敷は大和川の付け替えに尽力した中甚兵衛の生地でもある。



屋敷林の中では気づかなかったですが、近くのマンション屋上から見ると、優しげな葉を茂らせていました。

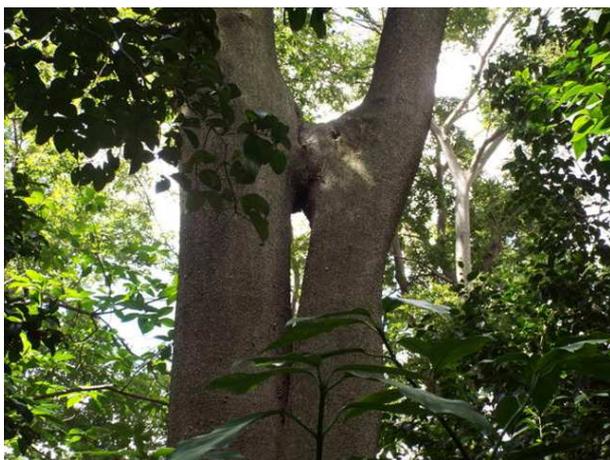


コガネグモ

8本の足を2本ずつ合わせてちょうどX字のような格好です。白いのは白帯とも言って、コガネグモの巣の特徴です。



エノキ:くっついて、また離れて
スギだったら夫婦スギとでも名付けられそうですが



ノシラン



唐竹:稈の長さが日本にある竹類では最も長い。T氏曰く「全く役に立たない」ですが、上部に葉が密生するので、煤払いに使われたこともあるようです。



キマダラカメムシ?



川中邸屋敷林〔1〕

「川中邸屋敷林」と聞いてもさっぱりわからないと思いますので、長くなりますが説明をします。奈良の初瀬川を源流に、大阪の南側を横断（東から西へ）するように一直線に大阪湾にそそがれる大和川は、今から約300年前の江戸時代、生駒山の西側をいくつにも枝分かれして北へ流れていた状態です。

（NPO 法人地域情報支援ネット発行、智多とも著、郷土の偉人伝シリーズ1「中甚兵衛ものがたり =大和川の流れを変えた男=」参照）



たびたび洪水の被害にあったため、大和川の流れを変える工事を幕府に願い出て付替え工事を指揮した中甚兵衛の生家が東大阪市のだ真ん中にあり、登録有形文化財として大阪府指定保全林である屋敷林に囲まれています。



門に入って玄関方向を見たお庭



玄関から門の方向を見たお庭



近くのマンション屋上から見た川中邸の全景・・・樹木に囲まれた藁ぶき屋根が川中邸



川中邸屋敷林〔2〕

今回川中邸を訪れたのは、邸内の竹林他の整備のためです。竹林から伸びた竹の芽の伐採、唐竹にまつわりついた藤つるの伐採をしました。作業状況は撮影する時間がありませんでした。庭の樹木を紹介します。

門前通路に立つカミヤツデ。門の屋根を超えています。



根が二股になって浮き上がっています。



幹が途中で別れてまた引っ付いています。



イスノキ 別名：ヒヨノキ 葉に虫こぶがしやすい。



川中邸屋敷林〔3〕

ムベ 未熟果がいくつかぶら下がっていました。



別のコーナーには唐竹が植えてありました。節と節の間が少し長い。この竹に絡まった藤つるを伐採したのですが、一部取り除きもれがありました。



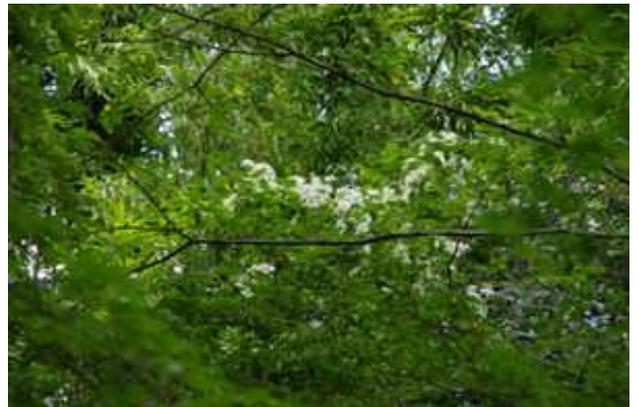
ヤブラン 蕾はまだ固い・・・ センニンソウが庭木を覆って咲いていました。



邸内の竹は真竹です。節が二重線のように見える。
(孟宗竹との相違点)



川中邸屋敷林の草本です。
ノシラン 果実が青く熟すのはもう少し先です。



白い花を咲かせるミズヒキ この庭には白いミズヒキしかありません。 ヤブミョウガ



川中邸屋敷林: 4

川中邸屋敷林の作業日に出会った昆虫たちです。

川中邸横の小道脇で出会った毛虫？名前は？？



奇麗な十文字を描いたコガネグモ

こんなにきれいな十文字を初めて見ました。



キマダラカメムシ (甘ピンゴ容赦)



川中邸横で見かけたウスバキトンボ



邸内のチャドクガ 即時退治をしました



ホシミスジ

食草はコデマリ・ユキヤナギですが、邸内にはないようです。



何の卵でしょうか？

